

2023年9月吉日

TBWA\HAKUHODO と専門家の有志が制作 関東大震災から 100 年の節目に、企業で働くひとの助け合いをまとめた 「防災アクションガイド」第 13 弾を公開 SNS などを使った新しい防災『働くひと防災』を提案

TBWA\HAKUHODO（本社：東京都港区、代表取締役社長兼 CEO：今井明彦）と FUKKO DESIGN（本社：東京都渋谷区、代表理事：河瀬大作）は、関東大震災から 100 年の節目を迎える 9 月 1 日に、企業で働くひとたちが災害時に助け合う新しい防災のスタイルをまとめた『SNS でつながる 防災アクションガイド — 企業で働くひとの助け合い』を発表しました。

働くひと防災 **働きながらできることを考えよう**

「働くひと防災」

企業のサービスなども活かした一人ひとりができる防災・支援活動を、私たちは「働くひと防災」と呼んでいます。結果的に企業の活動や、地域、社会全体の助けになることを目指します。

- 会社の情報やモノを提供する
- 復旧の作業を手伝う
- 会社のサービスを活用して支援

自分ができることを考えよう

自分の立場や強みを活かして、無理なく自分のできる防災に取り組みましょう。企業の仲間や企業で使えるもの、サービスなども活かすことで、より効果的な防災につながります。

- 地域のネットワークがあるひとは地域の支援を
- 情報発信が得意なひとは必要な情報の発信を
- 周りで取り組みをしているひとを手伝う
- 研究者や専門家など知識があるひとは情報の提供を

災害で企業に起きることとその対応

- 従業員の怪我や犠牲
- 社屋や工場などの建物が壊れる
- 事業がストップする
- その後の企業活動への影響

災害が起きると企業活動に様々な問題が発生しますがその対応は企業が中心に行われます。まずはその活動に参加しましょう。

支援しやすい環境づくりに協力しよう

社会的な立場のあるひと、チームを管理するひとなど、部下がいるひとは従業員などが自発的に動けるように環境を整えよう。

© FUKKO DESIGN JV・AD 協力：荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官事務官）

TBWA\HAKUHODO と FUKKO DESIGN は、自分でもできる災害対策をわかりやすくまとめた「防災アクションガイド」シリーズとして、今まで「大雨・台風」「天気急変」「冬の荒天」「地震・津波」「火山・降灰」などの自然災害への備えに加え、「在宅避難」「生活再建」「女性向け」など、ニーズに合わせて様々な切り口でガイドを制作・公開してきました。

「防災アクションガイド」シリーズの第13弾となる今回は、企業で働くひとたちが災害時に助け合う新しい防災のスタイルとして「働くひと防災」をテーマに制作しました。地震や台風、集中豪雨などの自然災害に見舞われることの多い日本において、行政による支援だけでは十分に手が行き届かないという課題が問われている中で、企業による支援の重要性が高まっています。しかし、企業による防災というと、事業継続計画（BCP）を中心に組織としての対策がほとんどです。組織としての対策は、もちろん最重要事項ではありますが、支援に限られる中で、「働くひと」一人ひとりが自主的にできることがもっとあるのではないかと考えるのもと、『SNS でつながる 防災アクションガイド — 企業で働くひとの助け合い』の作成に至りました。本アクションガイドは、企業に在籍し、そこで得たスキルやネットワークを有する個人の力を活かし、様々な支援につなげることを目的に、企業に所属する個人ができる災害対策を「働くひと防災」と名づけ、広めていきます。

『SNS でつながる 防災アクションガイド — 企業で働くひとの助け合い』

URL: https://www.tbwahakuhodo.co.jp/uploads/2023/09/bousaiactuionguide_13_hatarakuhito.pdf

<詳細>

企業で自分ができていることを考えよう

働くひと防災の紹介や、災害時に企業で起きること、自分ができていることを説明しています。

正確な情報を把握して発信しよう


災害が起きた時の正しい情報収集について紹介しています。

『不要不急』を考えて安全確保を

災害時に頻出する「不要不急」について、どのように考え行動に移すべきか解説しています。

企業の強みを活かして行動しよう


企業のリソースを活用した取り組みなどをまとめています。



働くひと防災

企業で働くひとの助け合い

働きながらできることを考えよう




SNSでつながる
防災アクション
ガイド

! 災害が発生したら、個人や行政だけでは対応しきれません。
企業で働くひとたちは、組織の力を活かしつつ、自分でできる支援をしていきましょう。


「働くひと防災」

企業のサービスなども活かした一人ひとりができる防災・支援活動を、私たちは「働くひと防災」と呼んでいます。結果的に企業の活動や、地域、社会全体の助けになることを目指します。


会社の情報やモノを提供する



復旧の作業を手伝う




会社のサービスを活用して支援




自分ができることを考えよう

自分の立場や強みを活かして、無理なく自分でできる防災に取り組みましょう。企業の仲間や企業で使えるもの、サービスなども活かすことで、より効果的な防災につながります。


地域のネットワークがあるひとは地域の支援を




情報発信が得意なひとは必要な情報の発信を



周りで取り組みをしているひとを手伝う




研究者や専門家など知識があるひとは情報の提供を




災害で企業に起きることとその対応


従業員の怪我や犠牲




社屋や工場などの建物が壊れる



事業がストップする




その後の企業活動への影響




災害が起きると企業活動に様々な問題が発生しますが、その対応は企業が中心に行われます。まずはその活動に参加しましょう。

支援しやすい環境づくりに協力しよう

社会的な立場のあるひと、チームを管理するひとなど、部下がいるひとは従業員などが自発的に動けるように環境を整えよう。




© FUKKO DESIGN JV OAD 協力：荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官房審議官）



働くひと防災

企業で働くひとの助け合い

正確な情報を把握して発信しよう



SNSでつながる
防災アクション
ガイド

! SNSなども駆使しながら、正確な情報の収集に努めましょう。
状況に応じて、得た情報を近隣や家族を含め、周りにいる様々なひとたちにシェアしましょう。

正確な情報を収集しよう

身の安全を確保し落ち着いたら、ニュース、SNS、会社など様々な場所から多角的に情報を収集しましょう

- **企業や業界団体の情報**
会社の被災状況や支援活動の情報など
- **気象庁の防災情報**
警報の発表状況、予測情報など
- **NHKなど報道機関のニュース**
最新の正確な報道情報
- **内閣府防災や官邸などの情報**
政府の支援制度の適用状況など
- **市区町村の情報**
避難情報・支援情報など

情報収集時のポイント

内容を冷静に確認

災害時はデマが出回ることもあるため、正確な情報かどうかを冷静に判断しよう。

職場の情報源を把握

会社のどの部署の誰が情報をまとめているか確認し、スムーズに情報を得られるようにしよう。

地域の情報も入手

市区町村の災害対策本部から、地域の被災状況や支援に関する情報などを入手しよう。

把握した情報を積極的に発信しよう

素早く情報共有を

災害時は重要と思われる情報はすぐ共有し、対応できる体制を整えよう。

家族にも情報を伝えよう

会社に一時待機するときも、随時家族と連絡して情報を共有し合おう。

© FUKKO DESIGN JV OAD 協力：荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官房審議官）



働くひと防災

企業で働くひとの助け合い

「不要不急」を考えて安全確保を



災害時には「不要不急の外出を控える」よう注意喚起されます。そうでない場合でも、何が不要不急か事前に議論し、災害時に対応できるようにしておきましょう。

不要不急とは

危険な状況では「不要不急の外出を控える」よう注意喚起されます。「不要不急」は必要ない仕事という意味ではありません。自分や企業の同僚の安全を守るために、働き方について考えましょう。



不要不急なタイミングを知ろう

気象庁・国土交通省などから「不要不急の外出を控える」と聞いたらすぐにストップ。そうでない場合も気象情報を確認して自分のいる地域が危険がありそうなら、活動が不要不急か判断して行動しよう。

不要不急の判断の目安

- 安全な場所からオンラインにできないか
- 交通がマヒしても安全確保できるか
- 後日に延期できないか
- 移動中に被災する可能性はないか
- 自分や関係者の命・安全を守れるか
- 災害対応の業種より優先されるか

自発的に自分や周りのリスクを考えて判断しよう



何が不要不急か事前に考えよう

自分の働く企業にとって
何が不要不急なのかを事前に話し合おう



医療、災害対応など、やむを得ず対応しなければならない場合を除き多くは不要不急な活動です。

周りど不要不急なことを確認しよう

積極的に関係各所への不要不急なことを伝え、安全確保できるようにしよう。従業員の命と安全を危険にさらすのは企業として最大の損失です。



車での出勤が危険な場合も

車での移動中に被災する場合があります。無理に社社したりせず、できる限りリモートワークに切り替えるか、気軽に休める雰囲気づくりを。



働くひと防災

企業で働くひとの助け合い

企業の強みを活かして活動しよう



働くひとのマンパワーやスキル、それによる情報などのサービス、企業の空間、モノなどを活用して、地域や社会に対して効果的な支援活動をしなす。

企業のリソースを活用して支援活動をしなす

自分の立場やスキル、企業の特性などを考慮して、どのような支援活動ができるか考えなす

ひと、スキル、サービス

- 復旧や復興の活動への参加
- スキルを活かしたサービスの提供



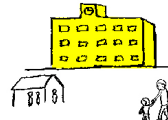
情報

- 避難所としての場所の提供も
- 支援に活かせる企業情報を発信



場所・空間

- トイレなどの提供
- 帰宅困難者の受け入れ
- 避難所としての場所の提供も



モノ

- 食糧や物資の提供
- 支援に活かせる自社商品の提供
- スマホやEVの充電用に電気の提供



自治体やNPOにも共有・相談しよう

企業で支援をはじめの際は、円滑に支援が行き届くよう自治体や災害支援系のNPOなどにも相談しよう。災害前に関係ができていると、より効果的です。



備蓄を余分に確保

従業員以外に、帰宅困難者や地域に対する備蓄も用意しておこう。例えば、従業員分の備蓄に地域のための1割を余分に備蓄すると、地域への支援にもつながります。



【プロジェクトリーダー TBWA\HAKUHODO 兼 FUKKO DESIGN 木村充慶 コメント】



私自身、広告会社に長く在籍しながら、業務で培った知識や社内外の仲間と連携し、様々な防災、復興支援の取り組みをしてきました。FUKKODESIGN という組織はまさに、そのような企業の力をもった様々な企業に所属する個人のあつまりです。やれることにはかぎりがありますが、ほとんどの人はなにかしらの企業や団体などの組織で働いているので、そういった動きが増えることで、これまでできなかったような多様な支援が広がっていくのではないかと考えています。新しい時代の防災、復興支援のあり方としてぜひ広がっていけば良いと思います。

プロジェクトメンバー

デザイナー：神之田裕貴（TBWA\HAKUHODO）

コピーライター：徳岡淳司（TBWA\HAKUHODO）

専門家：佐々木晶二（元内閣防災官房審議官）、明城哲也（NPO 法人全国災害ボランティアネットワーク<以下、JVOAD>事務局長）、古越武彦（JVOAD 事業部事業担当）など

TBWA\HAKUHODO（TBWA 博報堂）について

2006年に博報堂、TBWA ワールドワイドのジョイントベンチャーとして設立された総合広告会社です。博報堂のフィロソフィーである「生活者発想」「パートナー主義」とTBWA がグローバル市場で駆使してきた「DISRUPTION®」メソッドを中心とした独自のノウハウを融合。質の高いソリューションを創造し、クライアントのビジネスの成長に貢献します。「DISRUPTION®」は既成概念に縛られず、常識を壊し、新しいヴィジョンを見いだすTBWA HAKUHODOの哲学です。マーケティングに限らず、ビジネスにおけるすべての局面でディスラプションという新しい視点を武器に事業やブランドを進化させるアイデアを生み出します。<https://www.tbwahakuhodo.co.jp>

FUKKO DESIGN について

一般社団法人 FUKKO DESIGN は、「民間ビジネスの力を結集して新たな“復興”をつくる」を活動テーマに、平時のときから行政、民間企業、メディアとのネットワークを構築し、有事の時にすぐにサポートする体制をつくるほか、有事の際の被災地に関する情報発信の支援、復興タイミングにおける地域の魅力発信、企業のマッチングサポート支援などをトータルにデザインしていく団体として活動していきます。<https://fukko-design.jp/>